

少人数学級編制から 「複数・少人数指導体制～スマート・クラス～」へ

志木市独自の市費教員制度で一人ひとりの個性を生かし、未来をたくましく生き抜く子どもたちを育成します！



Shiki(志木の)
Multiple(複数の)
Assistant(アシスタント)
Reliable
(頼りになる、信頼できる)
Teacher(先生)

保護者の皆様へ

教育委員会では、現在、各小学校で実施している「少人数学級編制事業(ハタザクラブラン)」に代えて、平成31年度から志木市独自に新たな制度を導入します。

この制度は、次ページ以降で詳しく説明していきますが、これからの時代を生き抜く子どもたちに求められる知識、思考力、表現力などを育むための教育活動を進めていくことが目的であります。

例えば、より丁寧な指導が求められる教科や単元では、担任に加えもう一人の教員がいっしょに同じ教室で指導するなど、子どもたちの視点に立った、きめ細かな授業を実現していきます。

1クラスを二人の教員が担当し、各教員が少ない人数の児童を丁寧に指導できるので、この制度を「複数・少人数指導体制」と呼ばせていただきます。

この「複数・少人数指導体制」への改革に至った理由は次のとおりです。

●持続困難となってきた「少人数学級編制」

「少人数学級編制制度」は、以下のような大きな問題があり、持続することが困難となりました。

(1)「ハタザクラ教員」の採用確保が困難になってきたこと

制度開始当初は20倍を超える応募があったものの、現在では採用予定者数を確保することが困難(倍率1倍台)なくらい、応募者が激減しています。

(2)指導力に関する問題が顕在化してきたこと

採用倍率が下がったことで、残念なことですが、ハタザクラ教員の指導力に関する問題が看過できないような状況になってきました。保護者から「ハタザクラ教員の中には、経験も浅く担任としての指導力に不安がある。」という声もでており、実際クラス担任を続けることが難しく1学期で退職した教員の事例や、指導力不足の教員を助けるために他の教員がサポートに入った結果、学年全体の教員に負担がかかった事例などがありました。

※「少人数学級編制制度」は、1クラスの人数を1、2年生25人程度(上限29人)、3年生28人程度(上限32人)とする制度です。

なお、国・埼玉県の学級編制の基準が、現在では小学校1、2年生35人となり、志木市の制度との差が縮まってきました。

●これからの時代に求められる学習指導への対応

これまで、一斉指導が教育の中心となっていました。

一方、平成32年度から実施される新学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が求められています。つまり、子どもたちが受け身ではなく主体的に学習に取り組み、自ら考え、表現し、そして多様な人々との協働をとおして、未来を生き抜くために求められる知識、思考力、表現力などを育む教育活動が必要となってきます。


そのために、授業において自分で考え、調べ、自ら課題を解決する主体的な学習活動やグループで議論するなどの対話的な学習活動を積極的に取り入れることが必要となります。これらの学習活動には、**複数の教員で指導にあたり**、きめ細かに児童の様子を見ることが効果的です。

保護者の皆様には、新しい制度への御理解・御協力をどうぞよろしくお願いいたします。

「複数・少人数指導体制」の制度について

- ◎すべての小学校に2人ずつの市費教員(スマート教員)を配置します。
→1、2年生、3、4年生にそれぞれ小学校教員免許を持つ教員を一人ずつ配置し、子どもたちの実態に合わせた様々な授業形態を可能にします。
- ◎学校の規模や状況などに応じて、さらに4校に各1名のスマート教員を配置します。
- ◎合計で20人のスマート教員を採用します。
→これまでの「ハタザクラ教員」の平均採用数は14人です。新しい制度に変わり、採用数、予算ともに充実した指導体制を整えます。
- ◎担任についてはすべて埼玉県の本採用等の教員が受けもちます。
スマート教員は担任を受けもちません。
→クラスの実情に応じ、授業の進め方や児童の様子などについて、担任と連携をとりながら進めていきます。

このような制度になります




なぜ、「複数・少人数指導体制」にするのですか？

現状として、「ハタザクラ教員」の採用確保が困難になってきたこと、指導力に関する問題が看過できなくなってきたことなどから、「少人数学級編制制度」の持続が困難となっています。

また、これからは、受け身になりがちな一斉授業から、より主体的に子どもの学ぶ姿勢を育てるような授業改善が求められます。

これらの理由により、担任一人による従来型の一斉授業ではなく、学習内容によりグループ分けをしたり、複数の教員が同時に教室で指導したりすることが可能になる「複数・少人数指導体制」への改革を進めます。



クラスの人数はどうなるのですか？


小学校1クラスの上限の人数は、国や県の基準で

●1年生～2年生 35人 上限

●3年生～6年生 40人 上限 と定められています。

例えば1年生で、学年の人数が70人の場合は、35人ずつの2クラスになりますが、

71人の場合は、23人・24人・24人の3クラスになり、クラス数、人数ともに今までの制度と変わりません。



先生の数が多いと、子どもが落ち着かないのでは？

小学校入学間もない1年生は、一斉授業にとまどいを感じる子どももいます。いわゆる「小1プロブレム」です。

先生が黒板の前で授業を進めているときでも、質問できる先生がもう一人教室にいることは、子どもたちの安心感を高めます。

このような授業になります

新しく可能となる授業パターンや制度のポイントを説明します。



1

教員が二人いることで、担任が授業を行いながら、とまどっている児童に対して、スマート教員が個別指導をすることもできます。

担任とスマート教員は、連携をとりながら、授業を進めることができます。



2

国語や算数などのつまずきやすい教科や単元において、複数の教員によるきめ細やかな授業を行うこともできます。

また、2クラスの学年を3つのコースに分けて、児童自身に合ったコースで授業を受けることもできます。



3

体育の授業では、コートに分けてボールゲームの試合を行うときも、教員が二人いればどちらのコートにも目が行き届きます。

安全を確保し、子どもたちへの指導や評価も効果的に行うことができます。



4

今回の制度では、経験豊富な教員や民間の力も活用しながら、スマート教員を各小学校に配置する予定です。

例えば、チーム・ティーチング(1つの授業を2人の教員で担当する)で児童のつまずきを解決するための効果的な指導を行うことができます。



5

児童一人ひとりと向き合う時間を生み出します。

担任とスマート教員が教材研究や資料作成などで協力することにより、授業準備などにあてていた時間を、児童とふれ合うことのできる時間にすることができます。

参考：学級編制のしくみ(国・県の基準)

●小学校1年生の人数が84人の場合

84人

$84人 \div 35人 = 2クラス$ 余り14人

35人 35人 14人



2クラスでは足りないので、
3クラスになります

28人 28人 28人

$84人 \div 3クラス = 28人$

国・県の基準

小学校
1～2年 35人
3～6年 40人
中学校
1年 38人
2、3年 40人
(上限)

環境へ！
より学びやすい



学校が
変わります！

未来を担う子どもたちのための 多様な指導体制を実現します！

新制度に関してのお問い合わせ先
志木市教育委員会 学校教育課
電話 048-473-1111(内線3123)

※詳細は、志木市ホームページでも見られます。
<http://www.city.shiki.lg.jp/>

スマート教員配置のイメージ

1年生56人、2年生90人の場合の学級編制と教員の配置

少人数学級編制制度の
場合

1クラス29人上限

1年生(56人 2クラス)

1組 28人



本採用等教員

2組 28人



本採用等教員

2年生(90人 4クラス)

1組 23人



本採用等教員

2組 23人



本採用等教員

3組 22人



ハタザクラ
教員

4組 22人



本採用等教員

複数・少人数指導体制の
場合(現在)

1クラス35人上限

1年生(56人 2クラス)

1組 28人



本採用等教員

2組 28人



本採用等教員

国語や算数など
つまづきやすい
教科などに、担
任と連携して指
導にあたる



スマート教員

2年生(90人 3クラス)

1組 30人



本採用等教員

2組 30人



本採用等教員

3組 30人



本採用等教員